

〔名所方角抄三河〕矢矧里 河有り、八橋より五里なり、此川に橋あり、渡れば岡崎と云宿有、非名所、

〔梅花無盡藏二〕憩矢作宿十日〔文明十七年九月〕矢作在三

出、刘屋城三里餘、宿云矢作記其初、傳聞長者婿源氏、秋水瘦邊閑渡驢、

〔宗長手記〕大永七年略中安城一夜、松平與一、尾州よりこゝもとにて一夜、それよりやはぎのわたりして、妙大寺、むかしの淨瑠璃御前跡、松のみ残て、東海道の名残、いのちこそながめ侍つれ、今は

岡崎といふ、

豊河渡

〔海道記〕九日○貞應二曉をはやめて豊河の宿にとまりぬ深夜に立出てみれば、此川はながれひろく水ふかくして、まことにゆたかなる渡也、河の石瀬に落る浪の音は、月の光にこえたり、川邊

に過る風の響は、夜の色白し、又みぎは、ひなのすみかには、月よりほかにながめなれたるものなし、

ゑる人もなぎさに浪のよるのみぞなれにし月の影はさしくる

〔名所方角抄三河〕豊河 世俗に今橋といふ、宿よりも北なり、星野など、云所に近し、三河の北は

山つゞきなり、今橋の宿より高師原へ行なり、北に大山あり、其麓に豊河あり、矢はぎの里讀合せり、

狩人の矢はぎに今宵やどりなば明日やわたらん豊河のなみ

〔富士紀行〕十四日○永享四こゝの御とまりを立侍しに、河あり、これや豊川と申わたりならむとおぼえて、

かり枕いまいく夜有て十よ川やあさたつ浪の末をいそがむ

〔遠江國風土記傳 濱名郡〕新井○中

遠江國 荒井渡